

東京都千代田区神田駿河台3-2-11  
連合会館1階 原水禁気付

さようなら原発1000万人アクション実行委員会

電話 03-5289-8224

FAX 03-5289-8223

郵便振替 00100-8-663541

加入者名「フォーラム平和・  
人権・環境」

\*通信欄に『さようなら原発1000万人アクション』と明記ください。

# さようなら原発 1000万人ニュース

第36号

2024年6月6日



## この地震大国に原発はいらない

3月20日、東京・代々木公園で「さようなら原発1000万人アクション」の主催で全国集會が開催され、6000人が集まりました。脱原発、核兵器廃絶や気候問題などをテーマにしたブースが30店近く立ち並び、賑やかなイベントになりました。

メインステージは、松元ヒロさんのコントから始まりました。麻生太郎のモノマネや原発推進に向かう岸田政権を揶揄したり、原発の問題点などの知識も織り交ぜながらの風刺コントに、参加者を笑いの渦に包んでいました。

よびかけ人の落合恵子さんが「事故から13年が経ち、現実から目をそらすシステムが沢山ある。でも能登で地震があり、この地震大国に原発はいらない。私たちは福島を忘れない、原発と私たちの命は共存できない」と原点に戻って考えていこうと訴えました。澤地久枝さんは「原発を持たない国、軍備を持たない国を実現したいと思っている。そのためにささやかでも努力する。お互いに頑張っていきましょう」と話しました。

労働組合の青年層がとりくんだ「フクシマ連帯キャラバン」の報告、汚染水問題にかかわる学校教育現場の報告について、「志賀原発を廃炉に!訴訟原告団」の北野進さんは今回の地震災害の応援、激励への感謝の後に「元旦の地震で能登の風景は一変し、私たちの暮らしも大きく変わった。かつて中電の珠洲原発予定地の寺家(じけ)では1mの隆起、関電の高屋(たかや)では2mの隆起が起こった。珠洲原発が出来ていたら家屋倒壊、道路寸断、津波被害で奥能登が孤立し、被曝に晒されていたと思う。志賀原発を廃炉に追い込むため、震災から半年をめぐりに全国集會を開催したい」と決意を語りました。

宮城県の女川原発、茨城県の東海原発などそれぞれの原発立地県からのアピールの後を受け、集會のよびかけ人で作家の鎌田慧さんが「地震多発の日本に原発はいらない。脱原発に向かって、さようなら原発の力を強めていきましょう」とよびかけ、集會を結びました。

# 私は実名告発をやめない

呼びかけ人・評論家 佐高 信



のちに光文社知恵の森文庫に入る『原発文化人50人斬り』を毎日新聞社から出したのは2011年6月20日である。3・11から3ヵ月余りしか経っていなかった。

私はそこで原発の宣伝広告に出たりして推進の旗を振ってきたビートたけしやアントニオ猪木、さらには養老孟司や弘兼憲史、そして大前研一や茂木健一郎らのいわゆる原発文化人を名指しで非難した。

あの大事故後の原発の広告に出ている佐藤優や山内昌之、それに石坂浩二らも“確信犯”として追及されなければならないだろう。

事故が起こった時、ほぼ毎日のようにNHKテレビに出て解説していたのは東大教授の関村直人だった。関村は白煙が上がった時も「メルトダウンはしていません」と言い切り、さすがにその後は登場しなくなった。だから私は「関村のアタマが最初からメルトダウンしていたのだ」と批判している。“専門バカ”“というコトバがあるが関村の場合は”専門もバカ“なのである。

私が実名を挙げて告発したことに対しては「えげつない」とか「あざとい」という声が寄せられた。しかし、原子カムラに飼われて絶対安全と叫んできた方が、よほど「あざとい」だろう。

統一教会と同じように、だまされるのは“いい人”たちである。しかし、その上に「どうでも」がつく“いい人”にならないためには、ある程度、人のよさを捨てなければならない。とんでもない悪への想像力をかきたてる必要があるのである。

アントニオ猪木が亡くなった時、次の逸話をツイートしたら、かなりの反響があった。猪木の秘書だった佐藤久美子の『議員秘書捨身の告白』（講談社）によれば、何年か前の青森県知事選挙で、最初、原発一時凍結派の候補から150万で応援に来て欲しいと頼まれた猪木はそちらに行くつもりだったが、

推進派の候補のバックにいた電気事業連合会から1億円を提示され、あわてて150万円を返して推進派に乗り換えた。

講演などで、いくらで乗り換えたでしょうと尋ねると、大体千万円単位で1億円にはならない。いわゆる“いい人”たちは自分と等身大の悪しか想像できないのだ。現在は裏金スキャンダルで1億円と答える人がいるかもしれないが、3・11前の1億円である。

翌2012年の12月10日に私は小出裕章との共著で『原発と日本人』を出した、角川oneテーマ21という新書版である。

3・11の1か月後に明治大学で開かれた小出の講演を聴いた夜、私は水俣病を告発した原田正純に電話をした。

国立の熊本大学では教授になれなかった原田は、やはり京都大学で昇進の道を閉ざされた小出を気遣いながら、「チツソなどと違って、電力会社の力はとてつもなく大きいですからね。大変だったでしょう」と言った。

その原田は2012年の6月に亡くなったので、小出との本は見せられなかったが、『原発文化人50人斬り』を送った時の反応は忘れられない。お礼の葉書に原田は「溜飲が下がりました」というコトバを重ねて書いていた。それを繰り返したところに、原田が清浦雷作ら御用学者から受けた無念の深さを思った。

私はこれからも実名告発をやめない。そうしなければ原田や高木仁三郎を裏切ることになるからである。

● 新たに呼びかけ人に加わったお二人にメッセージを寄せていただきました。 ●

「さようなら原発」一千万署名 市民の会

落合恵子 鎌田 慧 古今亭菊千代 佐高 信 澤地久枝 藤本泰成 武藤類子

# 「ともに次の時代をつくろう」－呼びかけ人就任にあたって

呼びかけ人・原水爆禁止日本国民会議・顧問 藤本 泰成

北海道は噴火湾と洞爺湖に囲まれた町で生まれ、洞爺湖を周回するように転々としながら中学卒業まで過ごしました。都会と言えば製鉄の町で有名な室蘭市でしたが、本当に数回しか訪れたことのない田舎暮らしでした。その田舎町を室蘭本線が通り、よく蒸気機関車や気動車を見て過ごしました。無蓋車に石炭を積み込んだ列車、石炭列車と呼んでいたものが通ると、一体何両あるのかと数えたものです。牽引するのはデゴイチ（D51型）やキュウロク（9600型）などの蒸気機関車、最大で60両を牽引したとされています。最後まで数えきれたことはなかったと思いますが、記憶では軽く100両は牽引していたように思います。しかし、政府のエネルギー政策の転換と炭鉱の閉山によって、もう石炭列車を見ることはできません。

現在北海道内の一部の露天掘炭鉱を除き、坑内掘は旧太平洋炭鉱を引き継いだ「釧路コールマイン」1社しか残っていないと思います。石炭から石油へ、エネルギー政策は変わりました。敗戦から1年後の1946年12月、閣議決定で「傾斜生産方式」が採用され、石炭・鉄鋼産業はその中心に据えられました。1950年代、日本には1000以上の炭鉱があって、45万人以上が働いたと言われていました。しかし、直後から世界的には石油がエネルギーの中心に台頭し、炭鉱は不況業種となっていきます。子どもの頃、炭鉱で起こる落盤や坑内火災などの事故を聞きました。三井芦別鉱（1970年死者5人、1985年死者25人）、北炭夕張・新夕張鉱（1965年死者61人、1981年死者93人）、1963年、東京オリンピックの前年、福岡の三井三池鉱では、炭塵爆発で458人が亡くなっています。日本の炭鉱がいかに多くの犠牲者をもって操業されてきたか、1981年の新夕張鉱でのガス突出事故では、59人の安否が確認されない中で、注水作業が行われました。会社側の家族への説明会の映像が目に残っています。北炭新夕張鉱は、翌年閉山となり約2000人の従業員は解雇されました。そして、繁栄した夕張市の人口は10分の1に減り、2006年

には財政破綻の宣言が出されました。

長々と石炭産業の盛衰を述べてきました。さようなら原発の運動の中で、私はいつも炭鉱町とその担い手がたどった運命を意識してきました。原発をなくそう、その道のりが決して炭鉱閉山の歴史を

なぞるものであってはならない、そう思ってきました。原発を受け入れた福島の人々が、事故によって離散せざるを得なかった、その人々と寄り添って脱原発の運動を、原発を受け入れざるを得なかった立地市町村の人々に、理解される脱原発の運動を展開しなくてはならない、そう思ってきました。さようなら原発の運動が、単に原発誘致を非難するものではなく、ともに次の時代を考えるものであって欲しい、そう願っています。そして、そのように行動したいと思います。

2011年から夕張市長を2期務めた鈴木直道現北海道知事は、「産炭地はどこも苦しんでいる。国策でやってきたことなのだから、もっと国のサポートがあってもいい」と述べています。多くの原発が廃炉を迎えるとき、私たちは立地市町村にそう言わせてはなりません。いつも訴えてきたように「ひとり一人の命に寄り添う政治と社会」を求めて、誰一人として裏切ることのない運動の展開をめざしたいと思います。

脱原発社会を求める全国の皆さん、共に頑張りましょう。



# 「さよなら！志賀原発全国集会 in 金沢」に全国から結集を！

「さよなら！志賀原発全国集会 in 金沢」共同代表 北野 進

## 1. 今年こそ脱原発へ向かう年に！

元日の能登半島地震は、能登を中心に新潟県から福井県まで甚大な被害をもたらすと同時に、国内外の多くの人たちに衝撃を与えました。内陸地殻内地震としては兵庫県南部地震（M7.3）より大きく、観測史上最大と言われる1891年の濃尾地震（M8.0）に次ぐ激しい揺れがかったの珠洲原発予定地を襲い、さらに敷地内断層の審査などで13年間停止中だった志賀原発を襲ったのです。志賀町で震度7という発表も衝撃に追い打ちをかけました。原発立地自治体で震度7を記録したのは初めてのことです。もし珠洲原発があったなら、志賀原発が稼働していたなら大惨事に至ったのではないかと。そんな恐怖と僥倖をかみしめる中で2024年が明けました。「今年こそ脱原発へと舵を切る年にしなければいけない」そんな新年の決意を固めた方も多いのではないのでしょうか。

石川、富山でかつて珠洲原発に反対し、そしていま志賀原発の再稼働阻止に向けてたたかっている私たちの思いもまったく同じです。ただ、残念ながら地震の被災地を抱え、あるいは運動の仲間も被災者となり、全国の皆さんの闘いから後れをとってきたことも事実です。被災地で倒壊した家屋の下敷きになった人の救出に始まり、孤立集落への救援活動、食料すら届かない避難所への支援など、まさに命を

つなぐ活動が被災地では懸命に展開されました。その後の避難所の生活改善、インフラの復旧作業、二次避難への対応など、刻々と変化する被災地ニーズへの対応に多くの仲間が関わっています。志賀原発は大丈夫なのか、まだまだ隠蔽している被害があるのではないかと、たくさんの疑念を抱き、忸怩たる思いをしながら、石川県内で動き出すタイミングを探ってきました。

## 2. 能登半島地震から半年、6/30に全国集会開催

こうした中、2月29日には原水禁国民会議の協力を得て、資源エネルギー庁、原子力規制庁、内閣府への要請行動に取り組み、3月16日には石川県内の大衆行動としては年明け以降初めてとなる「大断層に囲まれた志賀原発にさよなら集会」を開催することができました。会場は主催者側の予想を上まわる溢れんばかりの多くの人々が参加しました。記念講演をお願いした井戸謙一弁護士は、能登半島地震から学ぶべき視点を3つの幸運、2つの教訓としてまとめ、参加者は志賀原発廃炉への決意を固めることができました。

この集会の成功を、さらに志賀原発廃炉へのもっと大きなうねりにつなげたい、そんな思いで主催団体を代表し私から全国集会の開催を提案させていただきました。その後、短い準備期間の中ですが、3.16集会を主催した志賀原発を廃炉に！訴訟原告団や石川県平和運動センター、原水禁石川県民会議、さよなら！志賀原発ネットワーク、社民党石川県連合、石川県勤労者協議会連合会で実行委員会を組織し、一致結束、集会に向け準備を進めているところです。

## 3. 金沢で全国集会を開催する意義

今年は女川や東海第二、柏崎刈羽、島根で再稼働を巡って緊迫した情勢を迎えています。上関町の間貯蔵、玄海町の最終処分場の動きも浮上しました。岸田政権の運転延長方針に対し、老朽原発の稼働阻

